

第6次高浜市総合計画推進会議（第4回） 会議録																																																			
日時	平成24年10月10日（水）午後7時～8時20分																																																		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	10名																																																
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)																																																	
	行政	<table border="0"> <tr> <td>財務グループ</td> <td>リーダー</td> <td>竹内正夫（財政分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>文化スポーツグループ</td> <td>リーダー</td> <td>内藤克己（生涯学習分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>教育センターグループ</td> <td>主幹</td> <td>梅田 稔（学校教育分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>経営戦略グループ</td> <td>リーダー</td> <td>山本時雄（産業・観光分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>市民生活グループ</td> <td>リーダー</td> <td>山下浩二（環境・憩い分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>都市防災グループ</td> <td>リーダー</td> <td>芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>地域福祉グループ</td> <td>リーダー</td> <td>杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>保健福祉グループ</td> <td>リーダー</td> <td>加藤一志（健康分科会リーダー）</td> </tr> <tr> <td>人事グループ</td> <td>リーダー</td> <td>野口恒夫</td> </tr> <tr> <td>こども育成グループ</td> <td>リーダー</td> <td>大岡英城</td> </tr> <tr> <td>市民窓口グループ</td> <td>リーダー</td> <td>木村忠好</td> </tr> <tr> <td>地域産業グループ</td> <td>リーダー</td> <td>神谷晴之</td> </tr> <tr> <td>都市整備グループ</td> <td>主幹</td> <td>田中秀彦</td> </tr> <tr> <td>上下水道グループ</td> <td>リーダー</td> <td>竹内 定</td> </tr> <tr> <td>福祉企画グループ</td> <td>リーダー</td> <td>磯村和志</td> </tr> <tr> <td>介護保険グループ</td> <td>リーダー</td> <td>篠田 彰</td> </tr> </table> (16名出席)		財務グループ	リーダー	竹内正夫（財政分科会リーダー）	文化スポーツグループ	リーダー	内藤克己（生涯学習分科会リーダー）	教育センターグループ	主幹	梅田 稔（学校教育分科会リーダー）	経営戦略グループ	リーダー	山本時雄（産業・観光分科会リーダー）	市民生活グループ	リーダー	山下浩二（環境・憩い分科会リーダー）	都市防災グループ	リーダー	芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー）	地域福祉グループ	リーダー	杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー）	保健福祉グループ	リーダー	加藤一志（健康分科会リーダー）	人事グループ	リーダー	野口恒夫	こども育成グループ	リーダー	大岡英城	市民窓口グループ	リーダー	木村忠好	地域産業グループ	リーダー	神谷晴之	都市整備グループ	主幹	田中秀彦	上下水道グループ	リーダー	竹内 定	福祉企画グループ	リーダー	磯村和志	介護保険グループ	リーダー	篠田 彰
	財務グループ	リーダー	竹内正夫（財政分科会リーダー）																																																
文化スポーツグループ	リーダー	内藤克己（生涯学習分科会リーダー）																																																	
教育センターグループ	主幹	梅田 稔（学校教育分科会リーダー）																																																	
経営戦略グループ	リーダー	山本時雄（産業・観光分科会リーダー）																																																	
市民生活グループ	リーダー	山下浩二（環境・憩い分科会リーダー）																																																	
都市防災グループ	リーダー	芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー）																																																	
地域福祉グループ	リーダー	杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー）																																																	
保健福祉グループ	リーダー	加藤一志（健康分科会リーダー）																																																	
人事グループ	リーダー	野口恒夫																																																	
こども育成グループ	リーダー	大岡英城																																																	
市民窓口グループ	リーダー	木村忠好																																																	
地域産業グループ	リーダー	神谷晴之																																																	
都市整備グループ	主幹	田中秀彦																																																	
上下水道グループ	リーダー	竹内 定																																																	
福祉企画グループ	リーダー	磯村和志																																																	
介護保険グループ	リーダー	篠田 彰																																																	
事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明（自治推進分科会リーダー） 同 主幹 三井まゆみ 同 主査 井野昌尚 同 主査 鈴木明美 同 主査 山本久美 同 主事 江坂摩由里 同 主事 中村彩 同 主事 市橋知樹 (9名出席)																																																		
次第	1 あいさつ 2 議題 1) 「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」について 2) 「高浜市の未来を創る市民会議」の今後の進め方について 3 その他 1) まちづくりシンポジウムについて																																																		

資 料	<p>資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第3回）会議録</p> <p>資料2：第6次高浜市総合計画の推進に向けて（提言）【案】</p> <p>資料3：第6次高浜市総合計画推進会議からの提言【案】</p> <p>資料4：【参考資料】高浜市の未来を創る市民会議 各分科会の発表内容に対する感想・コメント</p> <p>資料5：高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について【案】</p> <p>資料6：まちづくりシンポジウム企画書【案】</p>
-----	---

1. あいさつ

- ・第4回推進会議を始めさせていただく。
- ・本日は、会議終了後、市長へ提出する提言についてがメインテーマ。より良い提言ができるように、よろしく願いたい。

2. 議題

1) 「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言」について

事務局より、資料3「第6次高浜市総合計画推進会議からの提言【案】」、資料4「【参考資料】高浜市の未来を創る市民会議 各分科会の発表内容に対する感想・コメント」を基に説明。

- 会 長： ・提言書を提出するにあたり、委員の皆さんに、半年間、点検・確認結果に携わって、改善アイデアをまとめてきた想いや、提言の中で「特にこの部分には思い入れがある」といったポイントについて、ご発言いただきたい。
- 委 員： ・「目標（1）市民とともに歩む経営を行います」について、自治推進分科会では、まちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を広げるアイデアを出そうということで検討してきた。平成25年度の目標である「キャッチフレーズを知っている人の割合」30%を早く達成したい。
- ・提言書にあるようにたくさんのアイデアが出たが、早くアクションをとって、1つずつ早急に進めていきたい。分科会のメンバーも、地域でそれぞれ活動・活躍している。「みんなで広げていこう！」という気持ちは全員共通の認識。みんなでやっていけば、どんどん広がっていくと思う。
- ・「目標（3）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います」については、昨年度作成した、自治基本条例の子ども向け副読本を活用した出前授業を行って、精神を浸透させていきたい。
- ・全小学校で出前授業を実施したかったが、小学校のスケジュールもあり、今年度は、モデル校1校だけでの実施予定となった。
- ・出前授業を行うことで、将来を担う子どもたち、また、子どもたちを通じてその保護者である若い世代の大人たちに自治基本条例の精神が広がり、子どもたちを中心に地域への関心が高まってほしいと思う。
- ・来年度からは、全小学校で実施する予定。分科会のメンバーはもちろん出前授業に出かけるが、市民会議のメンバーの皆さんにも参加してもらい、みんなで自治基本条例を広げていきたい。ぜひご協力をお願いしたい。
- 委 員： ・今年度、財政分科会のメンバーに初めて女性が入り、「女性の感覚から財政を」という切り口で見ていただいている。財政の厳しさをどう理解していただくか、女性の力を借りながら、きちんと情報発信をしていきたい。
- 委 員： ・生涯学習分科会では、「目標（4）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます」については、とにかくネットワークが大事だという意見

であった。たくさんの方が、それぞれの立場で、いろいろな活動をされている。その活動を、分科会で表にしてまとめたところ、たくさんの活動があり、それをさらに分類化すると、非常に見やすくなり、括りもできた。そういったものを参考に、皆さんとネットワークをつくってはどうかと思う。また、いろいろな活動をチェーンネット化したり、市の広報やたんぼぽニュースなどの既存のものを使うと良いと思う。

- ・分科会では、市職員も一個人として、必ず発言をしてもらうことを大原則としている。職員の顔を少し離れた形で発言していただいております、良い成果が出てきたと思う。私たち市民の知らない世界も少しずつ見えてきた。
- ・「目標（6）人のつながりやぬくもりの中で、子育て・子育てを支えます」については、新しいアイデアを考えるのではなく、2005年に制定された「たかはま子ども市民憲章」を、もう1度活用していきたいと思う。
- ・過去にもいろいろ良いことをやっているのに、継続できず、埋もれていているものがある。そういったものを発掘する方が、道具としてもたくさんあるのではないかという意見の中で出てきたのが「子ども市民憲章」であり、絵本も配布されたということであった。しかし、当時は、配布して終わりだったようだ。中身を見たところ、非常にいい内容であったため、これを復活させたいと思う。それほど費用もかからず、良いのではないか。
- ・また、すでに行われている笑顔の写真展を少し発展させてみるなど、既存のもので非常に良いものがあるため、活用の仕方に工夫を凝らすことも必要ではないか。

- 委員：
- ・学校教育分科会には、今年度から新たに入ったメンバーもいたため、まずは、昨年度策定した「高浜市教育基本構想」の勉強会を行った。
 - ・この教育基本構想の想いを基に、ワークショップ形式で、それぞれの想い、現状、目標、課題、解決手段等を、和気あいあいとした雰囲気の中で検討してきた。会議の場所も、市役所を飛び出し、ふれあいプラザを巡りながら行い、新鮮味もあって意見が出やすかったのではないかと感じている。
 - ・まずは、市民や地域が関わる学校の授業・行事を「見える化」していこうという意見が集まった。市民側にはいろいろやりたいことがあるが、学校でどう活かしていくか、学校と地域の想いのミスマッチをどう埋めていくかということが、今後の課題だと考えている。
 - ・学習指導要領が変わったことで、学芸会がなくなった小学校もある。学校へ、地域のやりたいことを押し込むと、今実施している行事がなくなり、学校に保護者が入る機会がなくなる恐れがある。他の分科会も含めて、こういった想いも十分くみ取りながら、学校教育分科会で、学校といかにマッチングしていくかということを考えていきたい。

- 委員：
- ・市民会議の皆さんには、青なすがとても好評だった。産業・観光分科会でも、農業の分野で、新しく8種類のものを名産品として売り出していき

- いという意気込みが強く、青なすを中心に、しっかり宣伝していきたい。
- ・三州瓦の販路拡大については、いろいろご意見もいただいたが、長い歴史の中で限界を感じる部分もあり、なかなか良いアイデアが出なかった。
- ・コミュニティ・ビジネスについては、行政が昨年度から講習会を始め、創業・起業への雰囲気も出来つつあるということで、起業を応援するために、市の財政も厳しい中だが、運営資金等の支援策という具体的な次のステップに進んではどうかという意見が出た。
- ・地域の困りごとをビジネスにつなげてはどうかということがそもそものスタートであったが、なかなか地域から困りごとが上がってこなかった。農家では、野菜を作りすぎて破棄してしまうという事情があるということを知ったため、それを使って、漬物を作ってはどうかというアイデアも出た。
- ・観光の発掘については、瓦、鬼瓦、鬼師、とりめしに、タカハマ物語を加え、こういったものを連携させながら、賑やかしていければ良いと思う。
- ・情報は、ホームページのように待ち受けるのではなく、フェイスブックやツイッターなど、自分たちで発信していくことで、さらに高浜市の新しいビジネスにつながっていければ良いと思う。

- 委員：
- ・環境の問題は、全員で取り組んでいかないと成果は出てこない。今年度は、環境・憩い分科会の中に、企業で環境の問題に取り組んでいた方や、女性にも入っていただき、いろいろな方面から意見をいただくことができた。
 - ・「目標（9）みんなでまちをきれいにします」では、全員参加を対象とした作戦について検討したところ、「自助・共助・公助」に分けて、取り組みを考えてはどうかということになった。
 - ・「自助」は、マナーの問題であり、どのように向上させるか検討を行った。
 - ・「共助」は、一人ひとりだけの問題ではなく、ごみのポイ捨ても含め、地域みんなで取り組んでいく必要があるということで、分別収集作戦として、資源ごみの分別収集拠点の精度向上をベースに取り組んでいきたい。
 - ・「公助」では、ルール違反を摘発して、撲滅したい。ルール違反が、みんなに迷惑をかけるということを教育しながら、粘り強く対応したい。
 - ・「目標（11）自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます」は、目標（9）とも関連があり、利用者全員がマナーを守って、美しい憩いの場を維持していくことが大切である。
 - ・市民会議の他の分科会の皆さんからは、「マナーの向上作戦については、子どもの力を借りてどんどん進めてほしい」、「分別大相撲を活用して、更なる資源化への挑戦をしてはどうか」、「マナーの向上は当たり前のことであり、どんどん進めてほしい」という意見もあった。こういったことを参考に前進して、きれいなまちをつくっていきたい。
- 委員：
- ・「目標（10）ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります」については、市民会議全体会で、国道 419 号衣浦大橋交差点の立体橋の橋桁の色

のアンケートを実施し、117人中47人の約40%の支持で、かわら美術館と同色の黄土色に決定した。

- 委員：・「目標（12）安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます」については、防犯と防災にチームを分けて検討を行ってきた。
- ・各分科会から出された提言を実行するためには、原点として“安全・安心”がベースになる。防犯意識を向上させる、安全・安心なまちづくりを推進するといったことに対し、手段はいろいろ思い浮かぶが、一番身近で、原点となる「あいさつ」から広げていけば、みんなが知り合いになり、友達になり、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」も実現できるのではないか。お金もかからず、「あいさつが防犯の第一歩」ということで、家庭でも学校でも地域でも、簡単に実行できる。
- ・また、それぞれの小学校区に「あいさつ通り」を設置してはどうか。こうした取組みを通して、みんなが安全・安心を確保していきたい。
- 委員：・防災・減災については、家族が被害想定を共有し、少なくとも3日間過ごすことのできる実現可能なレベルを事前準備することが非常に大切。事前準備やその見直しを行うことで、有事に対し、必ず減災効果がある。
- ・また、標高サインを市内に約600ヶ所表示したが、今後、さらにコンビニや医療機関など、不特定の人が利用する場所にも表示していきたい。また、防災講演会や防災会議、各地区の防災訓練などには、これまで特定の人が参加していることが多かったが、もっと多くの人に参加できるような形にしていきたい。
- 委員：・地域福祉分科会では、分科会の中から生まれた「New ボランティア人」の意味のPRや働きかけを行い、啓発していきたい。
- ・ボランティアセンターについては、なかなか知られておらず、登録に結びつくことが難しかったが、地域で活動されている方はたくさんみえる。センターではそういったことが把握できていないので、地域の施設で登録できるよう、柔軟な対応をしてほしい。
- ・ポッチャについては、今年度から働きかけ、広げていき、つながりを深めていきたい。その中で、ボランティア体制を整え、自然にお互いに助け合いができるまちづくりを目指していきたい。
- 委員：・健康な地域社会には、毎日の生活の見直し、生活改善による病気の一次予防が大事。病気は、早期発見・早期治療が大切であり、それにはまず、かかりつけ医を持つことが大前提。
- ・今進めている健康マイレージは、“心と体の健康”、“家の中での閉じこもり・引きこもりをなくして外に出よう”ということで、地域の仲間づくりと口コミ、きっかけ、健康知識から始まると考えている。
- 会長：・本日は、アクションプランを所管する行政のグループリーダーの皆さんにも出席いただいているとのことなので、提言内容や委員の皆さんの発言を

- 受け、行政としての今後の決意などを、何名かお聞かせいただきたい。
- 行政：・先ほど委員からもあったように、財政分科会には新たに、女性や若い世代が加わった。提言のアイデアを見てみると、ゲームやタッチパネル、子どもから大人までといったキーワードが挙がっており、新たな視点での提言がなされたと感じている。
- 行政：・6つのアイデアをいただき、中には難しいこともあるが、より効果の高いものから選んで、アクションにつなげていきたい。
- 行政：・生涯学習分科会では、委員からもあったように、“全員一言は発言して帰ろう”、“傍観者ではなく、必ず参加した形で帰ろう”ということで進めてきた。そのためか、非常に出席率が良かった。
- 行政：・いただいた提言の中から、特に目標（6）について、笑顔の写真展に関する委員会でも、すでに来年度に向けて、こういった意見を取り入れていった方が良いといった意見も出ており、事業として盛り込まれている内容も出始めている。今後も、皆さんと協力しながら進めていきたい。
- 行政：・二次予防と言われるものが早期発見・早期治療、一次予防と言われるものが、その前段階の介護予防・健康増進にあたる。健康分科会からは、一次予防と二次予防について、バランス良く提言いただき、感謝申し上げる。
- 行政：・防犯・防災分科会からいただいた提言内容は、来年度のアクションプランに反映するとともに、出来ることは今年度から実施していきたい。
- 会長：・3ヶ月という短期間で、よくまとめていただいた。中身が抽象的ではなく、分かりやすく、具体的であり、とても良いと思う。テーマごとに新しい提案を出していただいたため、実行に移されて、具体的な活動に進展していくだろうと思う。
- 委員：・また、新規メンバーがかなり増えていると聞いているが、協力的な市民が増えてきたと思う。この市民会議を通じて、自分たちの住むまちのことを考え、行動していく“本物市民”が、もっと増えていくことを願っている。
- 委員：・職員の皆さんにも決意を述べていただいたが、この提言が絵に描いた餅にならないようにしていただきたい。
- 委員：・今月の部長・GL会で、まちづくりを含めたこういった展開にあたり、「気」というキーワードで話をさせていただいた。「気」を満ち溢れさせるため、4つのポイントがあるのではないかと考える。
- 委員：・1つ目は“スピードとキレのある動き”、2つ目が“明るく元気な声”、3つ目が“隙を見せない緊張感”、4つ目が“向上しよう、成長しようという食欲さ”。こういったことが大切である。
- 委員：・職員は、本日の提言内容を市民の皆さんと一緒に検討してきた。ということは、すでに職員の頭の中では、実行に移す絵を描いているはずであり、提言の一部はすでに着手しているものもある。これから来年度のアクションプランの策定や予算編成も始まる。担当グループが作成した案に、市民

の皆さんからいただいた想いがきちんと反映できているかチェックして、形にしていきたい。今後ともよろしくお願ひしたい。

- 会 長： ・現代経済学では「スピードの経済」として、スピードを稼ぐことが経済において、プラスになると言われている。利益を上げる、成果を上げるということは大変大事な概念であり、今、行政に一番大事なものは、“スピード”であるという時代。
- ・“行政改革”と言うと暗くなりがちだが、明るく、楽しく仕事をする、やりがいのある仕事を選ぶということ。効果のないものは、思い切って方向を変えるという明るさが必要。自己否定するわけではなく、変えるということは非常に良いことであり、レベルアップである。
- ・では、提言については、この案のとおりでよろしいか。

—異議なし—

- 会 長： ・続いて、資料2について、提言書提出にあたっての鑑の文章の文言を確認いただきたいが、いかがか。

- 委 員： ・3行目の「目標に向かってきちんと取り組みの効果が表れているか」の「きちんと」という表現は違和感がある。消すか違う表現にしてはどうか。

会 長： 「目標に向かって取り組みの効果が明確に表れているか」ではどうか。

—提案のとおり、「目標に向かって取り組みの効果が明確に表れているか」に修正する—

- 会 長： ・提言書を市長へ提出した後の流れについて、事務局より説明いただきたい。

事務局： ・推進会議からの提言を受け、すぐに実行に移せるものについては、現在実行中の事業に反映して、実行していく。また、予算措置等が必要なものについては、アクションプランの見直しや来年度予算編成にあたっての参考資料として活用させていただく。

- ・推進会議委員の皆さんには、当初予算編成の目途がつく年明け、来年1月頃に、提言内容をどのように反映したか、あるいは反映していこうと考えているのか、方向性や対応について、ご報告させていただく。

- ・市民会議メンバーの皆さんには、分科会を通じてご報告するのが良いか、2月頃に市民会議の全体会を開催し、ご報告するのが良いか、どちらが良いかご意見を伺いたい。

—2月に市民会議全体会を開催し、報告することとする—

2)「高浜市の未来を創る市民会議」の今後の進め方について

事務局より、資料5「高浜市の未来を創る市民会議の今後の進め方について【案】」を基に説明。

- 会長：
- ・下期は、「目標達成に向けた取り組み」ということで、引き続き、分科会活動を中心に行っていただき、総合計画の目標達成に向けて、市民の皆さんと一緒に取り組むことで効果が高まるテーマを取り上げていただき、市民と職員が協働で事業を検討したり、実行に取り組んでいただく。その後、3月に、各分科会の取り組み成果を発表していただき、推進会議においてとりまとめ、市長へ提言書を提出していただくという流れである。
 - ・連携については、連携したいテーマを絞り、目標や課題など、何について話したいかを具体的にした上で、双方の市民リーダー及び職員リーダー同士で協議し、連携して取り組むかどうかを検討していただきたい。

—意見・質問等なし—

3. その他

1) まちづくりシンポジウムについて

事務局より、資料6「まちづくりシンポジウム企画書【案】」を基に説明。

—意見・質問等なし—

- ・議事録については、書面表決とする。
- ・今後の日程

第4回市民会議：11月6日（火）午後7時～

第5回推進会議：12月17日（月）午後7時～

第6回推進会議：1月28日（月）午後7時～

—推進会議終了後、市長へ提言書の提出—

市長あいさつ

- ・推進会議の委員の皆さんには、分科会の運営を熱心に進め、非常に貴重なご意見をとりまとめていただき、提言としていただくことができた。
- ・市民会議の際にも申し上げたが、分科会には職員が入っている。職員は、分科会から出てくる意見を待つのではなく、いろいろな意見を聞きながら、自分たちで積極的に事業に取り組んでいくということが必要。先ほども「スピード」という話があったが、そういったことができると思う。また、各分科会に入って、意見を聞いて、提言書を出してきた中に、メンバーとして入っている以上、責任を持って、実行していく立場でもある。
- ・提言の中に、「見える化」という言葉がどれだけたくさん出てきたか。これは、職員が市民の立場に立ってみると、事業が見えない、分からないということ、市民の1人として、とりまとめたということだと思う。ぜひ、そういったことは、分かりやすく噛み砕いて、「見える化」として、どうやって皆さんに分かっていただくかということに気を付けることが必要だと思う。